

サンライフ北島写真講座作品展

9月11日(金)～13日(日) 10時～17時

*最終日は16時まで

会場●2階ギャラリー

入場無料

主催●サンライフ北島写真講座作品展実行委員会(幸田☎090・4975・7688)

▼下写真は、後藤田妙子「もっと大きく」



北島アンダーグラウンド・ナイト

遠藤ミチロウ 復活御礼★福島復興祈願 ライヴ

9月12日(土) 19時～

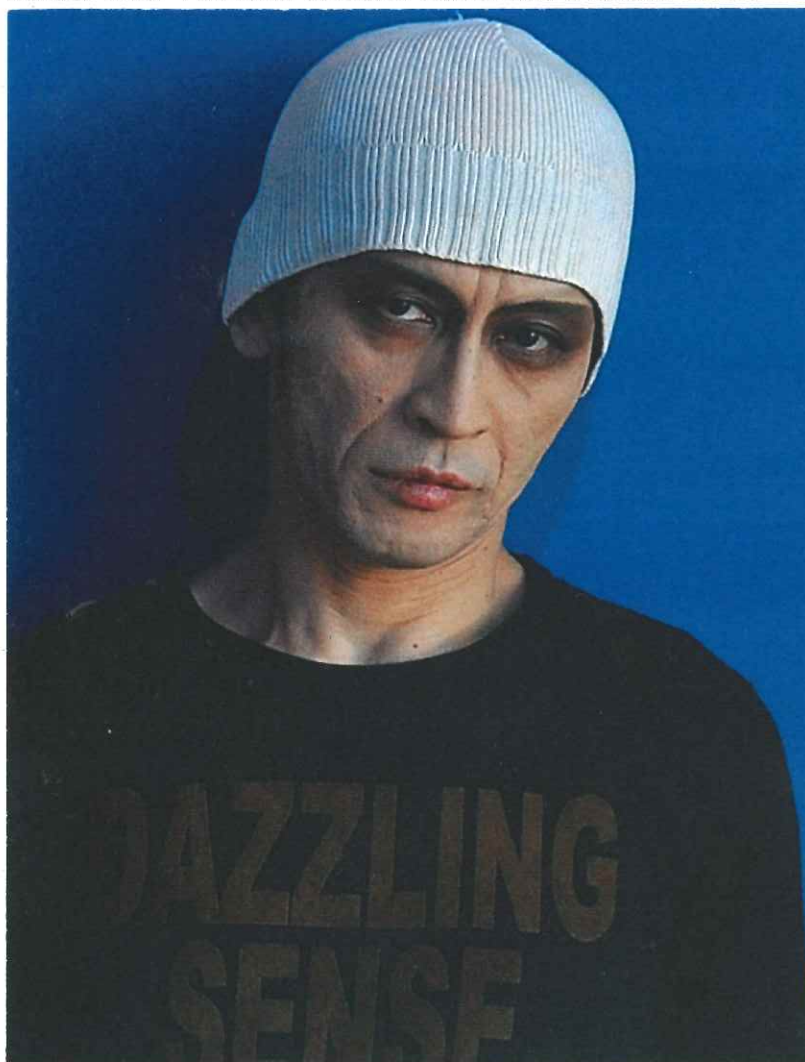
会場●2階ハイビジョン・シアター

入場料●前売/2500円(当日3000円)

出演●遠藤ミチロウ

主催●遠藤ミチロウ★ライヴ実行委員会(☎088・698・1100)

■創世ホール8回目の登場となるパンク歌手・遠藤ミチロウ(1950年11月15日生) ■福島県二本松市出身の彼は2011年、被災した郷里のために音楽家・大友良英や坂本龍一、詩人の和合亮一などと共にプロジェクトFUKUSHIMAを立ち上げ、同年夏、野外イベント「フェスティバルFUKUSHIMA」を開催。13000人を集め全世界の注目を集めた ■2012年の「フェスティバルFUKUSHIMA」は世界同時多発イベントとして日本国内百か所超の他、海外でも連帯イベントが展開された ■2014年、膠原病発症。入院治療を経て、薬の投与を受けつつライヴ活動再開。2015年4月、CD「FUKUSHIMA」、著作『膠原病院』発表。不屈の闘志で甦ったその雄姿は感動を与え続けている。



北島トラディショナル・ナイト(19)

ケルトシットルケ★オールスターズ

てんこ盛りアイリッシュ音楽

11月1日(日) 17時～20時

会場●3階多目的ホール

入場料●前売/大学・一般2000円、小・中・高1500円(当日各500円増)

出演●ココペリーナ

輔座

ディンゲルズ・ヴュー(坂上真清ユニット)

吉田文夫

主催●北島トラディショナル・ナイト実行委員会(☎088・698・1100)

■当演奏会シリーズの実行委メンバー、小西昌幸の定年退職メモリアル・イベントとして、史上空前のアイリッシュ～ケルト音楽フェスティバルがここに実現 ■アイリッシュ音楽伝道普及の最終決戦のため、8人のケルト音楽戦士が創世ホールに結集する ■東京から日本屈指のアイリッシュ・ハーピスト=坂上真清(さかうえ・ますみ)が北島町に捧げる哀切のオリジナル曲「ノース・アイル・タウン(北の島の町)」をひっさげて登場するほか、輔座(ふいごぎ)、ココペリーナが四国初上陸! ■ナビゲーターは関西アイリッシュ界の至宝・吉田文夫。コンサートは全3時間の予定 ■この日、徳島は天上のケルトの神々の祝福を受け、一大祝祭空間と化すであろう。二度と実現不可能な、奇跡の音楽会を見逃すな! ▼下写真は、坂上真清氏



文◎化◎ジ◎ャ◎ー◎ナ◎ル

情報メモランダム

小西昌幸

■徳島市出身の探偵・SF作家で、日本SFの父と呼ばれる海野十三(うんのじゅうざ) 関係の情報から。

【戦後70年 文学に描かれた戦争】展

■徳島県立文学書道館で8月7日から9月23日迄開催中の企画展【戦後70年 文学に描かれた戦争——徳島ゆかりの作品を中心に】に、海野十三のコーナーも設けられている。入ってすぐのところが瀬戸内寂聴(瀬戸内晴美)さんのコーナーで、その隣が森内俊雄さん、海野は森内さんの隣に配置されている。企画展の図録にも見開き2頁で海野が紹介されている。

ことのは文庫に海野十三「降伏日記」収録

■文学書道館では企画展に合わせて、《ことのは文庫》シリーズから『文学に描かれた戦争——徳島大空襲を中心に』(2015年8月1日刊、税込400円)も出版。ここには、海野十三「降伏日記」が収録されているので海野コレクターは必携だ。本書にはそのほか、瀬戸内寂聴「多々羅川」、森内俊雄「眉山」、富士正晴「帝国軍隊における学習・序」も同時収録されている。徳島県立文学書道館の文庫版叢書シリーズ《ことのは文庫》は、モラエス、海野十三、瀬戸内寂聴、賀川豊彦、北條民雄、野上彰と堂々たるラインナップであり、地方の文学館としては異例の画期的刊行物と言え、意欲的で立派な業績を積み重ねていると思う。県民は誇りとすべきだろう。

芥川賞作家・柴崎友香さんと海野十三

■また、私は不勉強で知らなかったのだが、芥川賞作家・柴崎友香(しばさきともか)さんの長編小説『わたしがいなかった街で』(新潮文庫、2014年12月、本体550円)の中に、海野十三『敗戦日記』が随所に登場する(引用されている)。9月13日には、上記企画展関連の講演会として、柴崎さんが徳島県立文学書道館でお話をされる。柴崎友香さん講演会「戦争の記録と記憶 伝わること、伝えること」日時●2015年9月13日(日) 13時30分~15時 会場●徳島県立文学書道館1階特別展示室 入場料●無料(要観覧券) 主催・問い合わせ●徳島県立文学書道館 ☎88・625・7485

創元推理文庫から海野十三作品集2点刊行

■創元推理文庫から7月に日下三蔵編、海野十三著『猿鷲(ぼくおう) 名探偵帆村莊六の事件簿』が刊行された(本体1000円)。本書には帆村莊六モノの短編10作(「麻雀殺人事件」、「省線電車の射撃手」、「ネオン横丁殺人事件」、「振動魔」、「爬虫館事件」、「赤外線男」、「点眼器殺人事件」、「俘囚」、「人間灰」、「猿鷲」)が収録されている。帆村莊六は、《ほむらしやうろく》と戦前風にルビを振れば一目瞭然、シャーロック・ホームズを漢字の当て字にしたものである。海野の代表短編の一つ「振動魔」には帆村探偵バージョンと警視庁巡査・田部バージョンがあるということで、解説では、初出以降の単行本やアンソロジー、作品集収録に際して、どのバージョンかを克明に

照合しており圧巻。何しろ21のテキストを調査分類しているのだ。日下三蔵氏の尽力に敬意を表するとともに、迫りに圧倒されたことを告白しておこう。

■そして同文庫からは9月に日下三蔵編、海野十三著『火葬国風景』も刊行された(本体1100円)。小説は、短編と中編計10作(「電気風呂の怪死事件」、「階段」、「恐しき通夜」、「蠅」、「顔」、「不思議なる空間断層」、「火葬国風景」、「十八時の音楽浴」、「盲光線事件」、「生きている腸」、「三人の双生児」)、巻末にはエッセイ「『三人の双生児』の故郷に帰る」が収録されている。

■このエッセイは非常に重要で、海野自身の筆で「生まれが徳島本町」、育ったのが「安宅町小西ノ丁にある祖父・渉の家」と明確に記しているのである。そして7点の写真(雑誌からの複写写真)が添えられている。いずれも写真の撮影者は海野である。初出誌は、海野や木々高太郎が関わった探偵雑誌『シュピオ』であり、当然紙質の酸化や経年劣化があるのだが、非常によく複写できており、その意味からも貴重な資料とってよいと思う。なお、同エッセイは、文学書道館発行の、ことのは文庫版『三人の双生児』にも収録され、写真も掲載されている。もちろんコレクターは両方収集しておくべきだろう。

旭堂南湖さん、岩波書店『文学』に登場

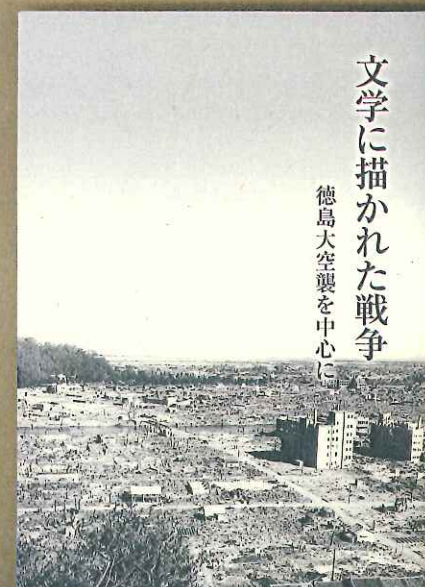
■創世ホールでおなじみの上方講談師・旭堂南湖(きょくどうなんこ)さんは、大阪芸術大学大学院出身のインテリ芸人さんだ。その南湖さんが岩波書店の雑誌『文学』2015年7・8月号に登場した。南湖さんは、「難波戦記の続き読みを終えて」という一文を寄せている。ユーモラスな筆致で、講談の自由な話の広がり方を紹介、その楽しさ・面白さを具体的に説いている。『文学』は、堂々たる国文学研究の雑誌なので、これは快挙と言ってよいのではないかな。

松村進吉『超怖い話 乙(きのと)』

■徳島市在住の実話怪談作家・松村進吉氏は、普段は家業の土木関係の仕事でパワーショベルを運転しているような人である。角川書店からの近作『セメント怪談稼業』が、好評で読書家の間でずいぶん話題になったので、ご存じの方も多いただろう。毎年夏の恒例行事である竹書房文庫からの単独著作が今年も刊行された。今年は『超怖い話 乙(きのと)』。本書刊行に合わせて、北島町のケーブルテレビ局キューテレビで今年も松村進吉氏へのインタビューが2回に分けて放送された。放送は、キューテレビの情報番組「もぎたて情報局」の中の「ミステリー倶楽部」というコーナーでそれぞれ約二十分から二十数分の尺数で流された。

東雅夫編、佐藤春夫著『たそがれの人間』

■怪奇幻想文学研究の第一人者でアンソロジスト・東雅夫さんは創世ホールに3回登場いただいている常連さんだ。その東氏の編纂書をご紹介。東雅夫編、佐藤春夫著『たそがれの人間 佐藤春夫怪異小品集』(平凡社ライブラリー、2015年7月、本体1400円)。東氏は、同じ平凡社ライブラリーから宮沢賢治、内田百閒、泉鏡花の怪異小品集を刊行しており、本書はシリーズ第4弾。「化物屋敷を転々と」「世はさまざまの怪奇談」「文豪たちの幻想と怪奇」の3部構成で、29編の作品を収録。いつもながら行き届いた解説が見事である。……………(20150918脱稿、文責=北島町教育委員会教育次長・小西昌幸)……………



文学に描かれた戦争

徳島大空襲を中心に



わたしがいなかった街で
柴崎友香 Shibusaki Tomoka



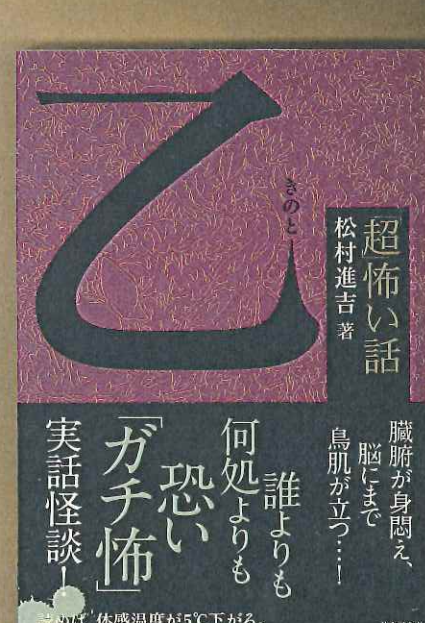
猿鷲 海野十三 名探偵帆村莊六の事件簿

名探偵 帆村莊六が 帝都を震撼させる 奇想天外な 怪事件に 挑む!



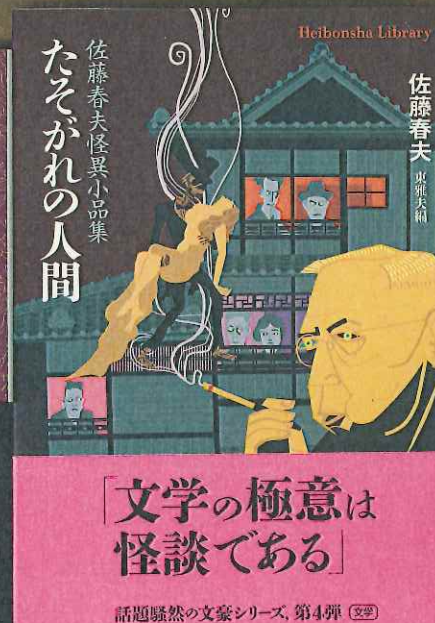
日下三蔵編 海野十三 火葬国風景

唯一無二の 科学的奇想 の世界



超怖い話 乙(きのと) 松村進吉著

誰よりも 何処よりも 怖い ガチ怖 実話怪談



佐藤春夫 東雅夫編 たそがれの人間

文学の極意は 怪談である